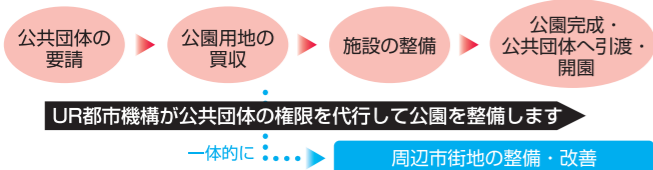


防災公園街区整備事業の流れ



資金計画上の3つのメリット

- 1 用地取得時において、地方公共団体の負担がありません**
国からの出資金(無利子)により公園部分については、100%充当し用地購入費を立て替えます(市街地部分については50%)
- 2 地方公共団体の事務手続きが軽減されます**
地方公共団体になり代わりUR都市機構が補助金の申請及び交付を受けます
- 3 一般財源部分は、割賦償還が可能です**
用地費の場合:償還期間20年(5年据置)、無利子
施設費の場合:償還期間15年(2年据置)、国土交通大臣が定める年率

整備事例

かまど可変ベンチ
【使用法 図解】 座板取り外し (Removable seat plate), 耐火材のベンチ脚 (Fire-resistant bench legs), 鉄製樹蓋 (Iron tree cover)

災害に強いまちづくり②
防災公園等の整備
—— 市川市大洲一丁目地区

各地で発生する大規模災害に備えて、既成市街地での避難場所の確保が重要となっています。防災公園街区整備事業はUR都市機構が地方公共団体からの要請に基づき、工場跡地等を機動的に取得し、防災公園と周辺市街地を一体的に整備改善する事業です。

防災公園は、日常は近隣住民の憩いの場ですが、災害時には復旧・復興拠点や物資の中継拠点となったり、周辺地区からの避難場所となるように多くの機能を持たせたもので、防災機能の強化を図る上で整備が求められています。

災害に強いまちづくり①

密集市街地の改善
—— 三軒茶屋地区

東京世田谷の三軒茶屋周辺は、狭い道路や行き止まりの道路が多く、地域防災の骨格となる都市計画道路や緊急車両が通行できる主要生活道路が未整備でした。そのうえ老朽化した木造住宅の密集が防災上大きな課題となり、公園の不足等も含め、居住環境として早急な改善が望まれた地域でした。

UR都市機構は、これらの課題を改善するために、明治薬科大学の移転による大規模跡地を活用し、懸案の都市計画道路や主要生活道路の拡幅、防災広場・ポケットパークの整備、沿道緑化を行い、密集市街地の整備と良質な都心居住住宅の供給等の事業を、地方公共団体・民間事業者等の連携によって実施しました。

航空写真



世田谷ティーズヒル

都市計画道路補助209号線の整備 (幅員16m:機構が直接施行で整備)

外周道路の拡幅整備

補助209号線の整備

デッキ広場

既存樹木の保存

〈凡例〉
 ■ アクティ三軒茶屋 ■ ハウスソラーナ
 ● 保存樹木 ● 移植樹木 ● 新植樹木

拠点地区の概要

(世田谷ティーズヒル※)
 ※機構が用地取得した敷地に、UR賃貸住宅「アクティ三軒茶屋(523戸)」と民間分譲住宅「ハウスソラーナ(109戸)」および生活支援施設棟で構成されています。

所在地 東京都世田谷区野沢1丁目35番ほか
 交通 東急田園都市線三軒茶屋駅から徒歩約9分
 機構取得地区(拠点地区:世田谷ティーズヒル)
 敷地面積 約3.0ha
 用途地域等
 ・第1種中高層住居専用地域
 ・第1種低層住居専用地域
 ・第2種高度地区
 ・準防火地域

